

島根原子力発電所第2号機 指摘事項に対する回答整理表(耐震基本方針:基準地震動Ss及び弾性設計用地震動Sdの策定概要)

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への 反映箇所	備考
		ヒアリング 資料番号	図書種別, 目録番号	図書名称	該当頁					
1	2021/11/4	NS2-添2-001-02	耐震(説明書)(VI-2-1-2)	VI-2-1-2 基準地震動Ss及び弾性設計用地震動Sdの策定概要	P.18	弾性設計用地震動Sdについて、Sd-1を設定した理由及び鉛直方向の地震動の設定方法を説明すること。	2022/4/6	弾性設計用地震動Sd-1を設定した理由として、「基準地震動S1も考慮することとするが、基準地震動Ssの係数倍で基準地震動S1の応答スペクトルを包絡することは過大な地震動となり合理的な設計ができない」の記載を追加しました。また、弾性設計用地震動Sd-1の鉛直方向の地震動の設定方法として、「鉛直方向の地震動は、水平方向の2/3倍をおおむね下回らないように設定する」の記載を追加しました。	NS2-添2-001-02改01「VI-2-1-2 基準地震動Ss及び弾性設計用地震動Sdの策定概要」P.18	
2	2022/4/6	NS2-添2-001-02改01	耐震(基本方針)(VI-2-1-6)	VI-2-1-2 基準地震動Ss及び弾性設計用地震動Sdの策定概要	P.18	弾性設計用地震動Sdの設定について、設置変更許可段階の経緯を踏まえて説明すること。	2022/7/15	補足説明資料NS2-補-023-16「弾性設計用地震動Sdの設定について」を追加し、設置変更許可段階にまとめ資料4条別紙19にて説明した内容を整理しました。	NS2-補-023-16「弾性設計用地震動Sdの設定について」	

島根原子力発電所第2号機 工認記載適正化箇所(耐震基本方針:基準地震動S_s及び弾性設計用地震動S_dの策定概要)

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
No.1～No.4は、NS2-他-094改01までで整理済みのため省略。						
5	NS2-補-023-16改01	弾性設計用地震動S _d の設定について	P.4	図2-1における許容限界①及び②の説明を追加しました。	2022/11/2	
6	NS2-補-023-16改01	弾性設計用地震動S _d の設定について	P.6	表2-1の内容が設置(変更)許可段階における概算である旨を追加しました。	2022/11/2	
7	NS2-補-023-16改01	弾性設計用地震動S _d の設定について	P.7	基準地震動S ₁ の応答スペクトルをおおむね下回らないよう配慮した地震動が弾性設計用地震動S _d -1であることが分かるように記載を適正化しました。	2022/11/2	
8	NS2-補-023-16改01	弾性設計用地震動S _d の設定について	P.14～17	弾性設計用地震動S _d の応答スペクトルと敷地における地震動の一樣ハザードスペクトルの比較において、基準地震動S _s -D×0.8の応答スペクトルを追加し、S _s -D×0.8の年超過確率は「JEAG4601・補-1984」による弾性設計用地震動S _d の発生確率を下回るもの、大きく乖離する旨を追記しました。	2022/11/2	
9	NS2-補-023-16改01	弾性設計用地震動S _d の設定について	P.14	運転状態と地震による荷重の組合せにおいて、S _d の年超過確率を10 ⁻² として設定している図書を追記しました。	2022/11/2	
10	NS2-補-023-16改01	弾性設計用地震動S _d の設定について	P.20	詳細設計段階におけるS _d -1の適用性に関する記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)なお、弾性設計用地震動S _d -1の設定の考え方は…、弾性設計用地震動S _d -1の適用性については、 <u>詳細設計段階において新旧設計体系の違いを踏まえて…、要因分析を行う。</u> (新)なお、弾性設計用地震動S _d -1の設定の考え方は…、弾性設計用地震動S _d -1の適用性については、 <u>新旧設計体系の違いを踏まえて…、要因分析を行う。比較照査及び要因分析については「NS2-補-027-14 弾性設計用地震動S_d-1及び基準地震動S₁による機器・配管系の耐震評価結果の比較」に示す。</u>	2022/11/2	